

第9回サルビア講座

おしっこと健康

開催日 平成18年6月3日

講師 本学講師 酒井健雄

尿検査は子供から老人まで健康管理の手段として幅広く行われています。今日の尿検査は試験紙を尿に浸けるだけで多いときは十数項目の検査をすることが可能です。簡単に検査ができて有用な情報が得られる尿検査は、家庭でも手軽に行えることもあり皆さんにもなじみが深いと思います。

このように大変便利な尿検査試験紙もいろんな物質の影響を受けて正しい結果が得られないことがあります。病院などでの尿検査では、尿の状態や妨害物質の影響について熟知している臨床検査技師が行っていますので問題ありませんが、家庭で行うときには判定に若干問題が生じる可能性は否定できません。

臨床検査は「速さ」と「正確さ」が求められますので、一般の化学分析のように試料から純物質を分離して分析（分離分析）することはできません。いろんな成分が混在したままで目的とする成分のみを特異的に反応させるという難しさがあり、操作の簡単さとは裏腹に正しい取り扱いというのは意外に難しいものです。これからますます自分での健康管理が必要となり、市販の健康管理商品を使う機会が多くなると思います。ここでは尿検査試験紙の正しい使い方を通じて皆さんの健康管理の一助になればと思います。

それでは尿の検査でどのようなことがわかるのでしょうか。尿に直接かかわる病気として、腎臓病、膀胱・尿管・尿道の疾患。そのほか血液の病気や心臓病、肝臓病、膵臓病。ホルモンバランスの崩れによる病気や腫瘍など。妊娠の有無なども尿中のホルモンを検出することでわかります。

このように大変便利な検査ですが、検査を受ける前に気をつけなければならないことがあります。身近な例では、尿糖の検査や潜血検査の前に気をつけたいのは、ビタミンCが多量に入っている清涼飲料や市販の茶飲料の多飲を避けることです。これらには多量のビタミンCが添加されています。なかでもお茶は無意識のうちに飲用しています。検査前に「おしっこが出ない」ので自販機でお茶を買って飲んで採尿をしたりすると、尿中にも多量のビタミンCが排泄されて、軽微な尿糖や潜血があっても陰性と判定されることがあります（偽陰性）。これは試験紙に含まれている薬品と尿糖や血液との化学反応を強力な還元剤であるビタミンCが妨害することで生じる現象です。最近ではサプリメントを利用する方が多くなりましたが、サプリメント中にはV.Cはじめ検査に影響を与える物質が含まれている可能性がありますので、以上のようなことを意識して尿検査前には、これらの使用は控えることが正しい尿検査をするうえで大事です。

なお、採尿方法も大事で、最も検査に適した尿は「中間尿」といって出始めや終わり頃の尿はカップに採らないで中間の尿のみを採るという方法です。これは尿道口付近の細胞や細菌の混入を防ぐという目的でこの方法をとります。傍目には簡単に見える尿検査ですが、正しい結果を得るには検査を受ける方にも注意が必要です。この度の公開講座を通じて検診やご自身で健康チェックをする場合の参考となれば幸いです。